

作成日 1995年 5月23日

改定日 2010年10月18日

製品安全データシート (MSDS)

1. 製品及び会社情報

製品名	MCヘドロ防止液
MSDS整理番号	MCHBA
会社名	マコト化学工業株式会社
住所	東京都大田区北千束2-9-2
担当部門	技術開発部
電話番号	03-3782-5992
FAX番号	03-5751-3052
緊急連絡先	同上

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性	: 引火性液体 金属腐食性物質	区分外 分類できない
健康に対する有害性	: 急性毒性 (経口) 急性毒性 (経皮) 急性毒性 (吸入: 粉塵、ミスト) 皮膚腐食性/刺激性 眼に対する重篤な損傷性 /眼刺激性 呼吸器感作性 皮膚感作性 生殖細胞変異原性 発がん性 生殖毒性 特定標的臓器/全身毒性 (単回暴露) 特定標的臓器/全身毒性 (反復暴露) 吸引性呼吸器有害性	区分4 区分4 分類できない 区分1 区分1 分類できない 区分1 分類できない 区分外 区分外 分類できない 分類できない 分類できない
環境に対する有害性	: 水性環境有害性 (急性) 水性環境有害性 (慢性)	区分1 分類できない

上記に記載がない危険有害性は、分類対象外。

ラベル要素

絵表示又はシンボル



注意喚起語

: 危険

危険有害性情報 : 飲み込むと有害
 皮膚に接触すると有害
 重篤な皮膚の薬傷・眼の損傷
 重篤な眼の損傷
 アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ
 水生生物に非常に強い毒性

注意書き : ご使用前に製品安全データシート（MSDS）をご参照下さい。

【予防策】

取り扱い後は、手をよく洗うこと。
 この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。
 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。
 粉じん/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。
 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。
 環境への放出を避けること。

【対応】

ただちに医師に連絡をとること。
 皮膚に付着した場合：多量の水と石鹼で優しく洗うこと。
 気分が悪い時は医師に連絡すること。
 汚染された衣類を再使用する場合には洗濯すること。
 飲み込んだ場合：口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。

飲み込んだ場合：直ちに医師に連絡すること。
 皮膚（または髪）に付着した場合：直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと/
 取り除くこと。皮膚を流水/シャワーで洗うこと。
 汚染された衣類を再使用する場合には洗濯すること。
 吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させる
 こと。
 眼に入った場合：コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外
 すこと。その後も洗浄を続けること。
 皮膚刺激または発疹が生じた場合：医師の診断/手当てを受けること。

漏出物を回収すること。

【保管】

施錠して保管すること。

【廃棄】

内容物/容器の廃棄は都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に
 委託すること。

国／地域情報

労働安全衛生法 第57条の2・文書の交付等(政令第18条の2別表第9)

: 該当物質を含有しない

労働安全衛生法 規則第326条

: 腐食性液体

化学物質排出把握管理促進法

: 指定化学物質を含有しない。

毒物及び劇物取締法

: 毒物及び劇物に該当しない。

分類の名称（分類基準は日本方式）

: 腐食性物質

3. 組成、成分情報

単一製品・混合物の区別 : 混合物
 化学名または一般名 : 工業用防腐防黴剤
 成分及び含有量・化学特性・CAS番号・官報公示整理番号

成分	含有量	化学式	CAS番号	官報公示整理番号 (化審法・安衛法)
有機窒素硫黄系化合物	非公開	非公開	非公開	非公開
有機窒素硫黄ハロゲン系化合物	非公開	非公開	非公開	非公開
無機塩類	非公開	非公開	非公開	非公開
グリコール類	非公開	非公開	非公開	非公開
水	非公開	H ₂ O	7732-18-5	対象外

4. 応急措置

- 吸入した場合 : 直ちに新鮮な空気のあるところへ移動し、保温して安静を保つ。大量に吸入した場合や異常が認められるときには直ちに医師の処置を受ける。もし呼吸が止まっていたら、人工呼吸を施し医師の処置を受ける。
- 皮膚に付着した場合 : 直ちに汚染された衣類を脱ぎ、接触した部分を水で洗い流した後、石鹼で徹底的に洗い、水で十分に洗い流す。接触した衣類を洗濯のため家へ持ち帰ってはならない。外観に変化がみられたり、炎症や痛みが続く場合は直ちに医師の処置を受ける。洗浄を始めるのが遅れたり、不十分であると皮膚に障害を生ずるおそれがある。
- 眼に入った場合 : 直ちに多量の流水で15分以上洗浄し、医師の処置を受ける。洗浄の際、眼瞼を指でよく開いて、眼球、眼瞼の隅々まで水が良くいきわたるように洗う。コンタクトレンズ使用の場合は固着していない限り取り除いて洗浄を続ける。洗浄を始めるのが遅れたり、不十分であると不可逆的な傷害を生ずるおそれがある。
- 飲み込んだ場合 : 直ちに多量の水（コップ2杯以上）を飲ませ、すぐに医師の処置を受ける。被災者が意識不明の場合は、口から何も与えてはならない。また呼吸が止まっていたら、人工呼吸を施し医師の処置を受ける。
- 応急措置をする者の保護 : 救助者は、暴露物質に直接触れないように保護具を着用する。汚染された衣類や保護具を取り除く。
- 医師に対する特別注意事項 : 腐食性があるので嘔吐させない方がいい。

5. 火災時の措置

- 消火剤 : 水、粉末、炭酸ガス、泡など
- 火災時の特定危険有害性 : 成分の分子中にC、N、S、ハロゲンを含有しているため、火災時に一酸化炭素等の他、窒素酸化物、硫黄酸化物、ハロゲン化水素等の刺激性もしくは有毒なガスを放出する。
- 特定の消火方法 : 消火作業は風上から行い、発生したガスに暴露されないようにする。火災にさらされた容器は、水をかけて冷却する。
- 消火を行う者の保護 : 消火作業の際は、必ず保護具を着用する。燃焼や高温により一酸化炭素、窒素酸化物、硫黄酸化物、ハロゲン化水素等の有毒なガスを発生するので、呼吸保護具を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項	: 屋内の場合、処理が終わるまで十分に換気を行う。作業の際には適切な保護具を着用し、飛沫等が皮膚に付着したり、ガスを吸入しないようにする。
環境に対する注意事項	: 漏出した製品が河川等に排出され、環境への影響を起ささないように注意する。大量の水で希釈したり洗い流す場合は、汚染された排水が適切に処理されずに環境へ流出しないように注意する。
除去方法	: 少量の場合は、粘土またはバーミキュライト、おがくず等の吸着剤で吸着させ取り除いた後、残りをウエス、雑巾等でよく拭き取る。 多量の場合は、土砂等で囲って流出を防止し、密閉できる空容器に回収する。 残った漏出物は、10倍相当量の処理液（重炭酸ナトリウム 5%、次亜塩素酸ナトリウム 5%の水溶液を調製）をまき、30分放置した後、大量の水で洗い流す。排水は廃水処理設備で処理する。

7. 取り扱い及び保管上の注意

取り扱い	
技術的対策	: 取扱いは換気のよい場所で行う。 着衣、皮膚、粘膜に触れたり、眼に入らないように適切な保護具を着用する。
注意事項	: みだりにミストが発生しないように取り扱う。
安全取り扱い注意事項	: 腐食性があるため、設備には防錆加工が必要である。
保管	
適切な保管条件	: 直射日光を避け、換気の良い冷暗所に密封して保管する。
安全な容器包装材料	: 腐食性があるため、ステンレスまたはポリエチレン容器に保管する。

8. 暴露防止及び保護措置

設備対策	: 取り扱いについては、全体換気装置が設置された場所で行う。蒸気やミストが発生する場合は、局所換気装置を設置する。取り扱い場所の近くに、眼の洗浄及び身体洗浄のための設備を設置する。
管理濃度	: 設定されていない
許容濃度	:
日本産業衛生学会（2002年版）	記載されていない
ACGIH（2002年版）	記載されていない

保護具

- 呼吸器用の保護具 : 通常は不要。
必要に応じて陽圧型空気呼吸器か、緊急圧抜き弁のある陽圧式の空気供給型呼吸器の付いた全顔面保護具。空気用洗浄型呼吸器は有機ガス用のカートリッジと粉体／ミスト用のフィルターを備えているもの。
- 手の保護具 : ニトリルゴム又はブチルゴム手袋
- 眼の保護具 : 防滴ゴーグルとフェイスシールド。呼吸器用の保護具と併用できるもの。
- 皮膚及び身体の保護具 : 定められた作業衣、安全靴。
必要に応じて、長期にわたったり或いは繰り返して皮膚に接触するのを防ぐために、耐化学薬品エプロンまたは耐薬品性の完全防護スーツ、或いは他の不浸透性の衣類を着用する。
- 適切な衛生対策 : 保護具の劣化や保護具に薬品の侵入を示す徴候が見られる場合は、直ちに外して交換する。手袋等保護具は洗浄して外し、手は水と石鹼でよく洗うようにする。

9. 物理的及び化学的性質

物理的状态

- 形状 : 液体
- 色 : 無色～淡黄色
- 臭い : 特有の刺激臭
- pH : 3.7～5.7 (1%蒸留水)
- 物理的状态が変化する特定の温度／温度範囲
- 沸点 : データなし
- 融点 : データなし
- 引火点 : 引火しない (クリフランド開放式)
- 爆発特性 : データなし
- 比重 : 1.09～1.15 (20/4℃)
- 溶解性
- 水 : 易溶
- その他の溶媒 : アルコール、グリコール類に易溶

10. 安定性及び反応性

- 安定性 : 通常の条件下では安定
- 反応性 : 酸化剤、アミン類、還元剤、メルカプタンとの接触はさけること。
- 避けるべき条件 : 50℃以上の高温、加熱
- 避けるべき材料 : 鉄等の腐食し易い金属
- 危険有害な分解生成物 : 一酸化炭素、窒素酸化物、硫黄酸化物、ハロゲン化水素

11. 有害性情報

- 急性毒性 : 経口 (ラット) LD₅₀ 1,400 mg/kg
- 局所効果・局所(皮膚、眼等)影響
- : 皮膚刺激性 (ウサギ) 腐食性あり
- : 眼刺激性 (ウサギ) 腐食性あり
- 感作性 : 皮膚感作性 あり

12. 環境影響情報

移動性	: 水域に移動しやすいと考えられる。
残留性／分解性	: 易分解性
生体蓄積性	: 蓄積性は低いと考えられる。
生態毒性	: 水生生物に対して有毒。

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物	: おがくず等を混ぜて焼却炉で少量ずつ焼却処理するか、都道府知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託処理する。
汚染容器・包装	: 空容器を廃棄する場合、内容物を完全除去した後に処分するか、専門の廃棄物処理業者に委託処理する。

14. 輸送上の注意

国際規制	:
IMDG (国際海上危険物規則) コード	: ハザードクラス 8 (Corrosives) Packing Group II
ICAO-TI (国際民間航空機関技術指針) /IATA-DGR (国際航空運送協会危険物規則)	: ハザードクラス 8 (Corrosives) Packing Group II
国連分類	: クラス 8 (Corrosives)
国連番号	: 1760 (その他の腐食性物質)
国内規制	: 下記の法令に従い、規定の積載方法、容器等によって輸送する。 船舶安全法 (危規則) 告示別表第1 腐食性物質 航空法

輸送の特定の安全対策及び条件

: 輸送前に容器の破損、腐食、漏れ等がないことを確認する。転倒、落下、破損がないように積み込み、荷崩れ防止を確実にを行う。
夏場の輸送時においては、熱い鉄板、地面等の上に直接置かないこと。

15. 適用法令

労働安全衛生法 第57条の2・文書の交付等 (政令第18条の2別表第9)	: 該当物質を含有しない
労働安全衛生法 規則第326条	: 腐食性液体
化学物質排出把握管理促進法	: 指定化学物質を含有しない。
毒物及び劇物取締法	: 毒物及び劇物に該当しない。
船舶安全法 (危規則)	: 告示別表第1 腐食性物質
消防法	: 危険物に該当しない

16. その他の情報

記載内容の取り扱い

記載内容は現時点で入手できた資料や情報に基づいて作成しておりますが、記載のデータや評価に関しては、如何なる保証をなすものではありません。また、記載事項は通常の取扱いを対象としたものですので、特別な取扱いをする場合には新たに用途・用法に適した安全対策を実施のうえ、お取扱い願います。

尚、この情報は新しい知見に基づき改訂することがあります。